

福岡工業大学附属城東高等学校

生徒会環境委員会

ゴミの分別・清掃ボランティア活動

全校生徒約2,000人、『チーム城東』をモットーに元気に明るく学校生活を送っている。部活動も盛んで日頃の学習はもちろん挨拶や掃除なども全力で取り組んでいる。環境活動にも力を入れており、生徒一丸となってゴミの分別や清掃ボランティア活動などに取り組んでいる。



博多女子高等学校

Hakata Girls' Shop

竹採物語～私たちが救う竹林問題～

糸島市のメンメーカーから竹林問題の話を聞いた。私たちは模擬会社で、商品開発をするならメンマしかないと考え、メンマスナック菓子「博多BARIMEN」を開発した。この活動が、全国の荒廃竹林美化活動に役立つことができると考えている。



福岡県立糸島農業高等学校

根っこ部

世界の畑を根こぶ病から守りたい

世界に広がるアブラナ科植物にだけ発病する難防除土壌病害「根こぶ病」の対策技術開発と啓発を通じ、過剰な農薬の散布や土壌改良剤の投与を軽減させ、未来にわたってアブラナ科植物の栽培が安心してできる環境にするための活動をしている。



福岡県立武蔵台高等学校

科学部

地域環境保全への取り組み～ホタルの飼育を通して考えたこと～

現在、在来種の「ゲンジボタル」「ヘイケボタル」「ヒメボタル」の生息数が非常に減っている。本校周辺地域の環境保全を行うとともに、地元「天拝 虫の会」の協力の下、筑紫野市地蔵川水系のホタルの幼虫の飼育・観察活動を行っている。



福岡県立伝習館高等学校

自然科学部

柳川掘割をニホンウナギのサンクチュアリにする研究

柳川掘割という歴史資産を使ってニホンウナギと人との関係を紡ぎ直し絶滅危惧種の絶滅を回避することで柳川の食文化の継承と経済基盤を維持することを第1の目的にしている。現在までにウナギ稚魚を2,836尾掘割に放流。研究を続けている。



大分県立日田高等学校①

bamboo班

日田はいつモウソウチクに覆われるのか？

外来種モウソウチクの竹害により森林が枯れ、水害時に土砂崩れなどの二次災害が起きている。これを防ぐために日田・玖珠地域に広がる竹林で複数の野外実験・調査、竹林の進行シミュレーションを行い、竹害の深刻化に警鐘を鳴らしたい。



大分県立日田高等学校②

ジビエ班

ジビエで日田を明るく

本来は捨てられるジビエの脂に注目。脂の使用方法がないため研究を始め、脂を使ったクリームやろうそくの実験を行った。日田の「千年明かり」祭りで使う竹籠の竹の中に入れるろうそくをジビエの脂で作ろうと地元の方たちと研究している。



大分県立玖珠美山高等学校

チームSATOYAMA

私たちの手で 地域の自然と環境を守れ！ Part II ～パークを利用した循環型農業～

地域の基幹産業である林業から出たスギ樹皮パークを農業用資材として有効利用し林業と農業の循環をつくり、脱炭素社会を目指す。糖度の高いトマト栽培にパークマットが対応できるかを検証し、トマト以外の野菜の栽培にも取り組んだ。



大分県立大分東高等学校

農業部

花育活動を通じた地域交流について

農作業で地域に花の笑顔を届け、楽しさを伝える「農花プロジェクト」。大分駅にプランターを設置した。園児・小学生・中学生への花育活動では、活動人数が延べ363名。多くの住民や子供たちに花の素晴らしさを伝えることができた。



佐賀県立鳥栖商業高等学校

流通経済科

鳥栖HAZEROUプロジェクト

鳥栖市周辺地域は、かつてははぜの実から抽出する「はぜろう」の製造、輸出の中心地。この「はぜろう」で作る和ろうそくを現代市場に復活させ、地区の原風景を守り、環境保全につながる活動をしている。地域の方々と商品化を進める。



佐賀県立伊万里農林高等学校

ねぎ麵プロジェクトチーム

規格外ねぎを利用したねぎ麵の商品開発

伊万里市の地域農産物「ねぎ」。農家では規格外ねぎが年間1tも出る食品ロスの課題がある。規格外ねぎを使い商品開発ができないかと考え、ねぎ麵とねぎだしスープの開発をした。規格外ねぎの利用率を向上させ食品ロス改善につなげたい。



長崎県立諫早農業高等学校

食品科学部

身近な環境問題解決法の検討 ～放置竹林対策に向けた菌床栽培法～

キノコ菌床栽培の一般的な「米ぬか」などの栄養体を「竹チップ」に換えると、かびなどの雑菌が発生しにくく、生育スピードや品質にも問題が無いことが分かった。栽培農家での実証実験も終え、放置竹林対策となることが期待されている。

